



『墓碑』をたずねて

姫路市内には、名古山霊苑・景福寺山墓地・増位山墓地・各寺院の墓地があります。各寺の墓地が都市計画等により、敷地面積が縮小され無縁墓の爲に名古山霊苑に移転を余儀なくされています。

今回は、各寺より移転し名古山霊苑に墓碑の有る著名人（姫路藩関係の人物）の墓碑をたずねたいと思います。

墓碑調査により、墓碑に記されている碑文によって人物像が判ってきます。

又、碑文には、生没年・経歴・事跡・家族構成等が撰文者によって書かれています。

皆様も、一度先人の墓参がてらの散策をお薦め致します。

★1 多田菊屏之墓

右の墓は、多田菊屏きくべいの墓です。菊屏は生没年不祥。姫路藩士。

通称は準平もとより、名は固、号を菊屏という。朱子学者で、安政元年（1854）藩学〈好古堂〉教授となった。

安政2年（1855）、藩主酒井忠顕の侍続として江戸から帰ってきた亀山節齋が、翌3年（1856）に教授となり、忠顕は、大和五条出身の森田節齋を招聘し、万延元年（1860）に〈好古堂〉で講義をさせた。

菊屏は、この時世話にあたり節齋の大文章論に多大の裨益を得たと言う。

督学松平惇典しゅんてんとともに遊んだ白国・平野の観梅紀行『春山倚杖』に対する節齋の批評は、多くの人から作文の好模範とされた。

残念ながら無縁墓の中に有る為、碑文は読み取る事が出来ません。



★1 多田菊屏之墓



★2 江坂元之助之墓

★2 江坂元之助之墓

左の墓は、贈正五位江坂元之助墓です。元之助は、天保9年（1838）に生まれる。姫路藩士。同藩士荻野流砲術師範江坂善藏の長男。

同藩勤皇志士江坂栄次郎の兄。諱は行厚、通称元之助。砲術に長じ荻野流砲術師範となる。同藩士河合惣兵衛の女婿で一族共に勤皇の志が厚かった。

文久3年（1863）惣兵衛と共に上洛し、御所の守衛の任に当る。

その間諸藩の有志と交わりを結び国事に奔走する。8・18の政変では西下の七卿に随行しようとしたが果たさず帰国する。同年10月の生野の義挙では鎮圧に従軍したが、千種家雑掌香川や儒者家里いえもと新太郎斬殺の罪に問われ、元治元年（1864）12月26日いわゆる甲子の獄に坐して自刃を命ぜられ、27歳で没する。

★ 3 西城戸正義之墓

左の墓は、駿河守従五位下菅原朝臣正義君之墓です。西城戸氏は代々姫路総社の祠官で、正義は安永7年（1778）に生まれ、家職を継いで駿河守と名乗った。壮年の頃より国学と易学を研究し、易学に於いては姫路地方の第一人者であった。著書に『気候きこう懸断録』がある。

安政6年（1859）4月16日、82歳の高齢にて病没。墓碑は八角柱形墓ぼけつ碣で、碑文は秋元安民やすたみの撰文で国文にて書かれています。国文で書かれた墓碑は姫路地方では少なく、又安民の撰文に成る墓碑も見ることがありません。



★ 3 西城戸正義之墓

★ 4 井上松香之墓

右の墓は、井上松香しょうこうの墓です。松香は、天保3年（1832）に生れる。姫路藩士。姫路五郎右衛門屋敷に生まれる。通称は貞助。

幼時より才があり、学芸をもって藩に仕え、嘉永5年（1852）から10年にわたり、同藩士で藩校〈好古堂〉の書道教授の渡邊劣斎に師事し、顔真卿書法の秘訣を受けた。明治11年（1878）に県立姫路中学校の教師となったが、後辞職して子弟に書道を教えた。姫路市総社正門前に「百度石」と大書している筆跡は永久に残るであろう。

明治25年（1892）8月18日、61歳で没しました。



★ 4 井上松香之墓

★5 角田心藏之墓

右の墓は、櫛円角田君諱義方の墓です。角田心藏は、生没年不詳。

通称は心藏、名は義方、号を櫛円という。朱子学者で、天保6年（1835）襲封した忠学（ただのり）の侍講となった。

忠学は教育熱心で、天保13年（1842）藩学〈好古堂〉の学制を改革し、校舎の規模をひろげ、大手門前西側に新築した。

弘化元年（1844）に工事が終わり、4月3日に開講の式典をあげたが、この時、忠学はみずから式場に臨み、侍講角田心藏は命を受け講義し、近臣以下多数のものが聴講した。心藏は、それより6年後の嘉永3年（1850）に〈好古堂〉の教授になる。

墓碑名の撰文は、亀山雲平。



★5 角田心藏之墓



★6 高橋倉山之墓

★6 高橋倉山之墓

左の墓は、倉山高橋翁之墓です。高橋倉山たかはし そうざん姫路藩儒・藩校教授。天明7年（1787）に生まれ、父は高橋雅安。

諱はこれただ惟忠、通称じよすけ恕介、松林山人・倉山と号した。

青年の頃、広島の菅茶山に学び、のち大阪に出て学ぶ。加古川寺家町で医者をしていたが、容貌が赤面・白髪で、衣服に無頓着のうえ、酒を愛して治産に拙く、絵画・華道・囲碁・蹴鞠に通じ、詩に長じたという。

文政12年（1829）姫路藩医に召し抱えられる。翌年の6月に藩学好古堂の指南手伝とり、同年末好古堂儒員と仁寿山じんじゆざんこう鬻教授を兼ねた。

同藩家老の河合寸翁かさいに愛され、誠実をもって寸翁に仕えた。

天保13年（1842）8月16日に56歳で没した。墓碑は、姫路藩家老の高須書山によって建立。碑文は藩儒、津田かざる實によって書かれているが、無縁墓の中に有り読めません。

名古屋靈苑區分割圖

